



令和7年度 開館25周年記念企画展

# 宮本百合子 その目に 映るもの

令和7年

令和7年

4.26(土) ▶ 6.15(日)

休館日 / 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日。5月6日(火)は特別開館)

開催場所 / 郡山市こおりやま文学の森資料館(郡山市文学資料館・郡山市久米正雄記念館)

開催時間 / 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

利用料金 / 〈個人〉一般200円、高校・大学生等100円

〈団体〉一般150円、高校・大学生等70円

中学生以下・65歳以上及び障がい者手帳をお持ちの方は無料

※郡山市こおりやま文学の森資料館常設展共通

主催 / 公益財団法人郡山市文化・学び振興公社

(郡山市こおりやま文学の森資料館)

郡山市文学資料館・  
郡山市久米正雄記念館の両館に  
ご来館いただいた方にノベルティ

特製しおりプレゼント



撮影:田村茂

こおりやま文学の森資料館

郡山市文学資料館 郡山市久米正雄記念館(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)





令和7年度 開館25周年記念企画展

# 宮本百合子 その目に 映るもの

令和7年

令和7年

## 4.26(土) ▶ 6.15(日)

郡山市こおりやま文学の森資料館には、数多くの文学資料が収蔵されています。

今回の企画展は、貴重な館収蔵資料を中心に広く紹介するものです。

本企画展で紹介する作家・宮本百合子(本名:中條ユリ)は

東京で生まれ育ちました。安積開拓の功労者・中條政恒を祖父にもち、

幼少期は開成山の祖母の家に遊びに来ていました。

そこで見たものは、輝かしい安積開拓とは裏腹の貧しい農民の姿でした。

ここに宮本百合子の文学への出発があります。百合子はその目に映ったものを、感情を、文学作品に昇華し、17歳という鮮烈なデビューから51歳で亡くなるまで、

人生を賭して書き続けました。

百合子の作品と言葉は今なお、現代社会を生きる私たちに問い続けています。

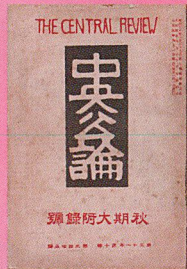
宮本百合子の文筆業の出発から110年の月日が流れました。

当館に収蔵している宮本百合子の原稿や書籍、作品掲載誌、遺品など、

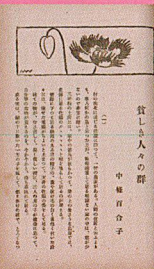
貴重資料を展示し、その生涯を振り返ります。



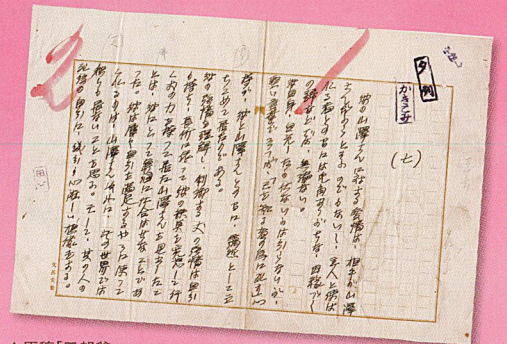
▲1919(大正8)年  
アメリカから帰国する船上で



▲「中央公論」1916(大正5)年9月  
中條百合子「貧しき人々の群」掲載



▲「貧しき人々の群」  
玄文社 1917(大正6)年



▲原稿「三部館」  
1918(大正7)年1月5～17日「大阪毎日新聞」「東京日日新聞」掲載



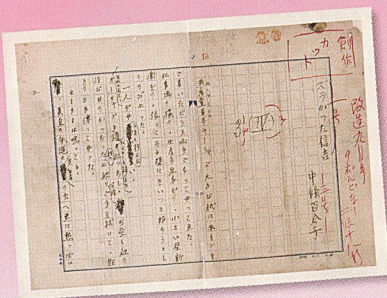
◀宮本百合子  
所有の  
ピアゾヨッキ



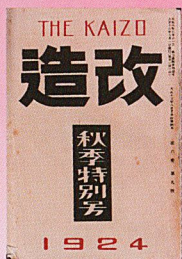
▲「働く婦人」創刊号  
1932(昭和7)年1月  
中條百合子  
「モダン猿蟹合戦」掲載



▲「貧しき人々の群」執筆当時の中條百合子



▲原稿「ズラかった信吉」  
1931(昭和6)年6～9月「改造」掲載



▲「改造」1924(大正13)年9月  
中條百合子「聴き分けられぬ雑音」  
(『伸子』第1回)掲載



▲宮本百合子が  
使用したペン先



郡山市文学資料館・郡山市久米正雄記念館の  
両館にご来館いただいた方にノベルティ

### 特製しおりプレゼント

## こおりやま文学の森資料館

郡山市文学資料館 郡山市久米正雄記念館  
(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

問い合わせ先 〒963-8016 郡山市豊田町3番5号 TEL.024-991-7610 FAX.024-991-7620  
<http://www.bunka-manabi.or.jp/bungakunomori/>

アクセス バス：JR郡山駅より約15分「総合体育館」下車徒歩1分  
車：東北自動車道郡山I.C.より約20分、郡山南I.C.より約20分、  
郡山中央スマートI.C.より約20分  
\*駐車場は、郡山総合体育館駐車場等、周辺の公共駐車場をご利用ください(2時間まで無料)。  
なお、近隣施設でのイベント等開催時は混雑が予想されますので、あらかじめご了承ください。

